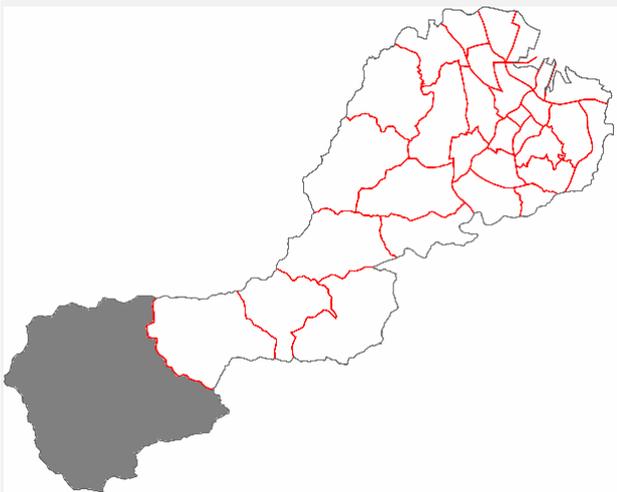


32 櫛田川上流森・波瀬地域

1 地域の現況と課題

1. 地域の概要

地域の現況	位置図
<ul style="list-style-type: none"> ・ 櫛田川上流の中山間地域であり、森林と集落地を中心とした地域である。 ・ 土地利用の大半は、山林・原野に占められており、国道 166 号沿道などに集落地が形成されている。 ・ 高見山、中央構造線、木梶三滝などの自然資源、景観資源が豊富である。 ・ 蓮ダム、香肌峡温泉ホテルスメールなど観光資源が集積している。 ・ 奈良県との玄関口に位置しており、玄関口としての機能集積のあり方の検討が求められている地域である。 	

基礎データ				土地利用現況					
		都市計画区域		都市計画区	合計				
		市街化区域	調整区域	域外					
地域面積 (ha)		—	—	16,185.3	16,185.3				
人口	H.12	—	—	1,752	1,752				
	H.17	—	—	1,680	1,680				
	H.17/H.7	—	—	0,959	0,959				
世帯数	H.12	—	—	649	649				
	H.17	—	—	654	654				
	H.17/H.7	—	—	1,008	1,008				
人口密度 (人/h)		—	—	0.1	0.1				
	種別	面積 (ha)	構成比 (%)	備考					
宅地	農地	32.9	0.2						
	山林・原野	124.8	0.8						
	その他	15,764.6	97.4						
	小計	263.0	1.6						
合計	小計	16,152.4	99.8						
合計		16,185.3	100.0						

地区別会議における主な意見

- ・ 森林が荒廃してきている。森林組合から補助が出るが、管理ができていない。新しい木材の利用方法の導入などによる林業への支援の充実が必要。
- ・ 全体的に休耕田が多い。獣害、高齢化、少子化で放棄地が増加している。
- ・ 国見山から江馬小屋谷にかけて広がるブナ林、天然林は、水源地域としての保全が必要。
- ・ 空き家の増加の一方、新規居住者の増加も見られる。
- ・ 若い人が残れるように工場など働く場を誘致してもらうことが必要。働く場の減少が人口減少につながっており、悪循環になっている。
- ・ (県) 蓮峡線は 2 車線あるが、幅員が狭い。林道、砂利道を舗装してほしい。
- ・ 林業、森林火災用にヘリポートが欲しい。
- ・ 奈良県側、西の玄関口としての地域づくり、中央構造線や登山・ハイキングなど恵まれた自然・景観資源を活用した地域づくりが必要。

2. 地域の課題

(1) 土地利用の課題

- ✓ 国見山の東斜面は、ブナ林が原生林の状態で残り保全が求められる。
- ✓ 地域の大半を占める森林は荒廃してきており、適切な管理の促進やバイオマスエネルギーとしての活用など林業を支援する仕組みが必要となっている。
- ✓ 管理が困難な森林は、伐採後放置し広葉樹林化・天然林化するなどによって森林の保全を図る必要がある。
- ✓ ほ場整備事業による基盤整備が整った農地では水稻栽培が行われており、担い手の確保も含めた農地の保全が必要である。

(2) 交通体系の課題

- ✓ 国道 166 号のバイパスとして、(県) 蓮峡線の早期の整備が望まれている。
- ✓ 桑原トンネル西側、関などで見通しの悪いカーブの改良、桑原から月出の集落に入る中央構造線への道路、舟戸地区の旧伊勢街道・和歌山街道の入口の道路などの狭幅員区間の拡幅整備が必要である。
- ✓ 夫婦滝の林道の補修、林道の砂利道は生活道路等として舗装が求められる。
- ✓ 森林の保全、林業の活性化のために基幹林道が求められている。

(3) 公園・緑地及び自然的環境の課題

- ✓ 蓮ダムサイト近くの公園の施設整備をし、林業、森林火災用にヘリポート機能を残す等の検討が必要である。

(4) 河川・海岸、下水道の課題

- ✓ 清流を作り、海の豊饒を支える山があり、源流域・中流域・下流域を通して流域の自然環境等を考える必要がある。
- ✓ 生活排水に伴う汚濁を防止し櫛田川等の公共用水域の水質を保全するため、合併処理浄化槽の普及促進を図る必要がある。

(5) 集落地整備の課題

- ✓ 高齢化の進展とともに、空き家が増加し、小規模な集落ではコミュニティの継続性の維持が困難となっており、就業機会の確保や集落の再編成等を検討していく必要がある。
- ✓ 木梶、栃谷などでは、退職者やセカンドハウスなど新住民が地区の半数程度となっているが、高齢者ばかりではなく、若者の定住化が必要である。

(6) 安全・安心のまちづくりの課題

- ✓ 土砂災害が発生すれば孤立する可能性があり、砂防対策を含めた浸水・土砂対策が必要である。
- ✓ 農地・森林への獣害が増加しており、対策が必要である。

(7) 景観形成の課題

- ✓ 高見山、宮の谷、高滝、ヒノキ塚などの自然景観があり、地域の山を含めて景観資源として保全が必要である。

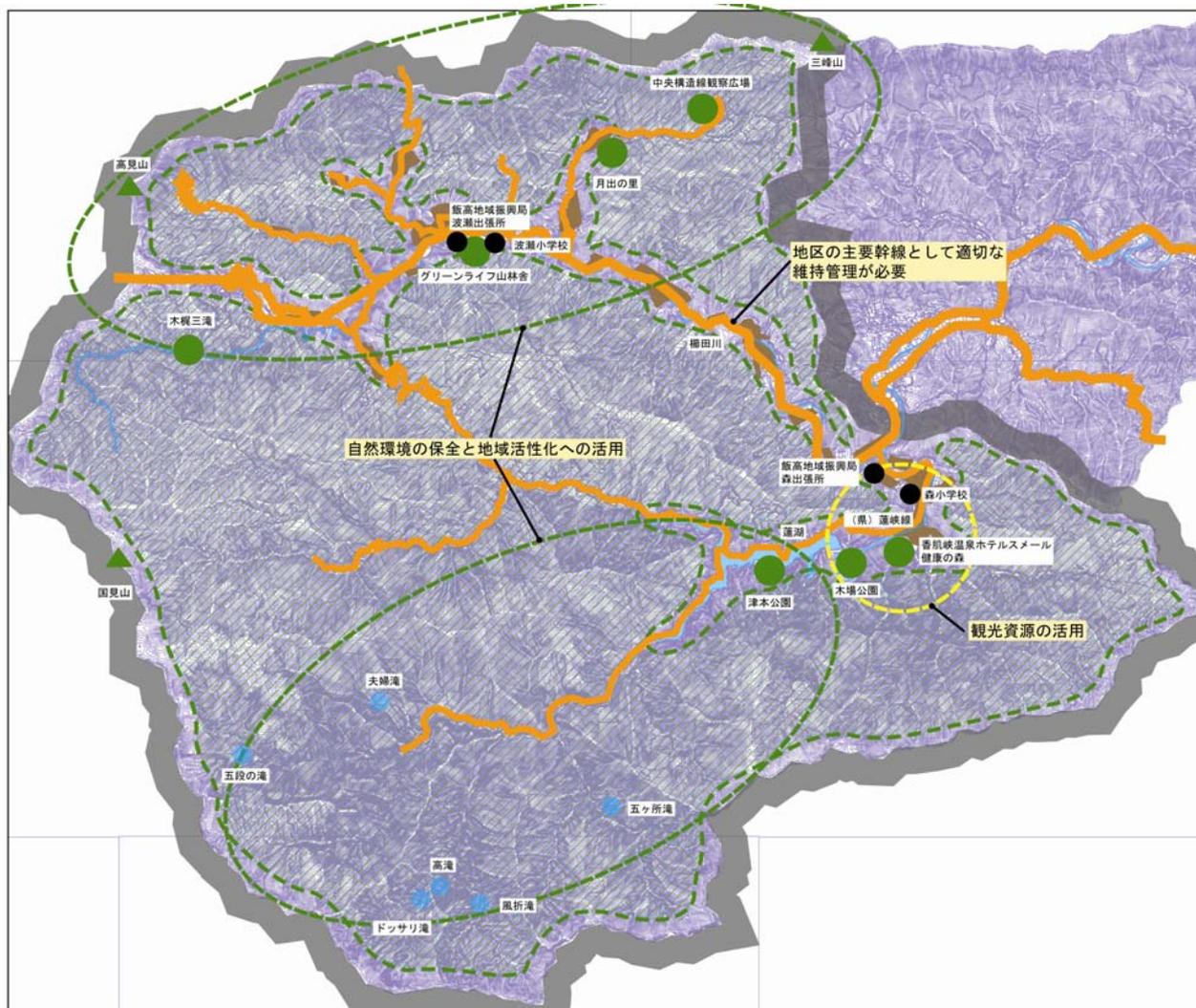
(8) 福祉のまちづくりの課題

- ✓ 高齢化で買物のことなどを考えると助け合うまちづくりが必要。

(9) 観光のまちづくりの課題

- ✓ 奈良県側の玄関口として、市内観光案内等の仕組みを整備する必要がある。
- ✓ 山地は豊かな自然に恵まれて、登山者も多いが、登山マナーに対する啓発が必要となっている。
- ✓ 香肌峡温泉ホテルスメール、蓮ダム、木樨の三滝、中央構造線、高見山の樹氷、山林舎など多数の観光資源があり、これらのネットワーク化や案内板・サインの配置、効果的なPRの実施などによって、地域の活性化を図ることが必要である。
- ✓ 中央構造線観光のためには、桑原から月出への道路整備が必要である。

● 櫛田川上流森・波瀬地域 地域別整備課題図



- 集落地としての生活環境を高める必要性が高い地区
- 農地として保全する必要性が高い地区
- 森林として保全する必要性が高い地区
- 主な道路
- 主な公園・レクリエーション施設
- 主な河川・水面
- 地区区分界



2 地域別構想

1. まちづくりの目標と主要な柱

地域が持つ豊富な自然資源・景観資源を活用した地域の活性化に努めるとともに、本市の西の玄関口としての機能充実を進め、交流と定住の里づくりをめざす。

○まちづくりの主要な柱

集落環境の保全
森林の保全
自然環境の保全
幹線道路の整備促進

2. まちづくりの基本方針

(1) 土地利用の方針

- 飯高町森、青田、乙栗子、加波、桑原、月出、波瀬、太良木、草鹿野、落方、舟戸、木梶、栃谷などに「集落環境保全地区」を配置する。
 - ✓ 「集落環境保全地区」では、小規模な集落におけるコミュニティの継続性の維持に向けた就業機会の確保、若者の定住化促進策の検討、空家対策などを含め、集落環境の維持増進に努める。
- 地域の大半を占める森林は「森林保全地区」として配置する。
 - ✓ 森林組合からの補助を活用した適切な管理促進、管理困難な森林の広葉樹林化・天然林化などによって森林の保全に努める。
 - ✓ 国見山の東斜面のブナ林、江馬小屋谷にかけての天然林については水源地域としての保全に努める。
 - ✓ 木材のバイオマスエネルギーへの活用など林業を支援する仕組みの検討に努める。
- 集落地周辺の農地は「農地等保全地区」として配置する。
 - ✓ 「農地等保全地区」では、担い手の確保も含めた農地の保全に努める。

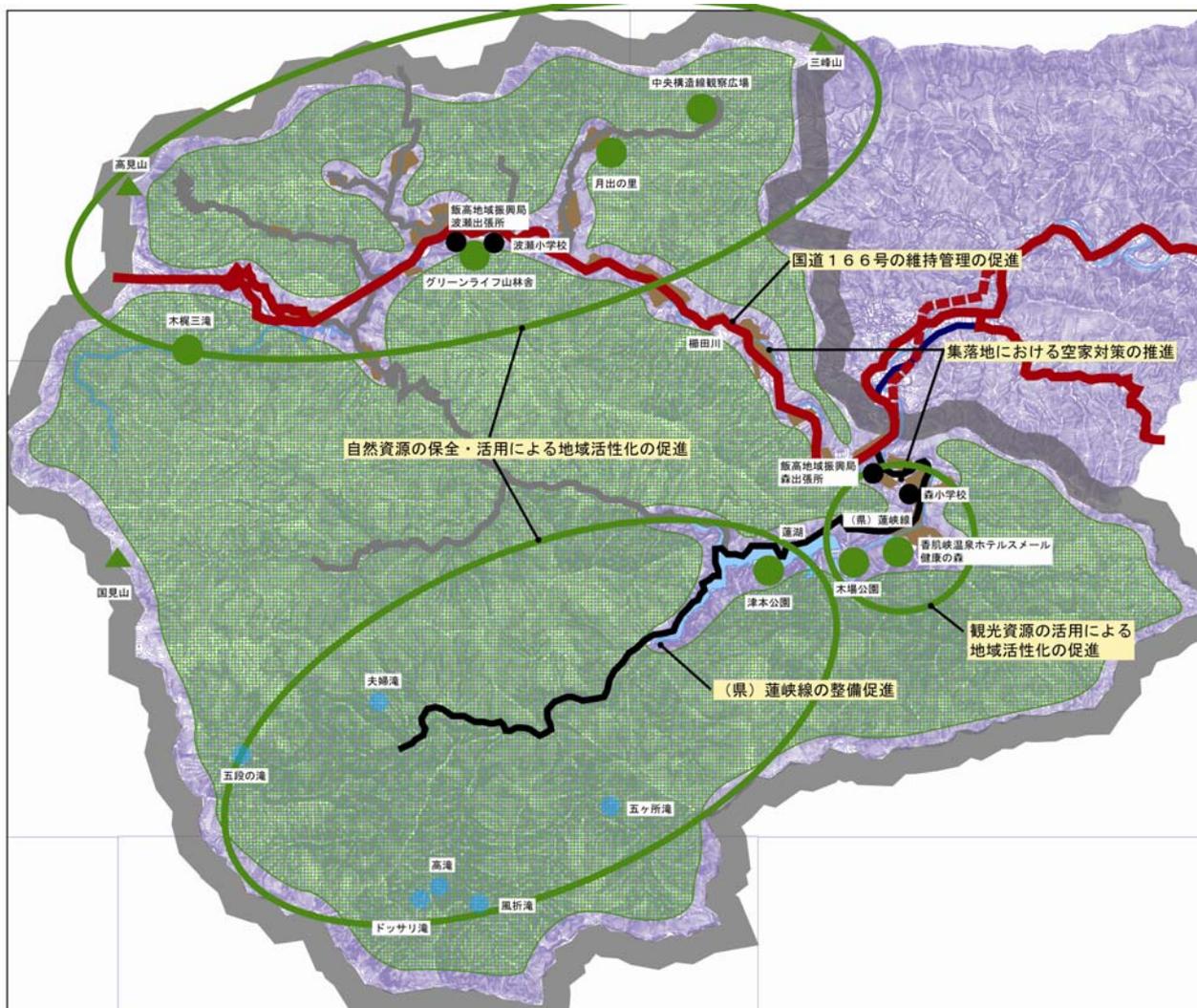
(2) 都市施設及び地区施設等の整備方針

- ✓ (県) 蓮峽線の整備促進に努める。
- ✓ 桑原トンネル西側、関などで見通しの悪いカーブの改良、桑原から月出の集落に入る中央構造線への道路、舟戸地区の旧伊勢街道・和歌山街道の入口の道路などの狭幅員区間の拡幅整備促進に努める。
- ✓ 生活道路等として利用される林道は、舗装等の整備の促進に努める。
- ✓ 木場公園の整備を促進する。
- ✓ 蓮ダムサイト付近の公園整備を進め、これらの施設は林業、森林火災用にヘリポート機能の確保に努める。
- ✓ 生活環境の保全に向けて、自然環境に配慮した治山・治水事業を促進する。
- ✓ 櫛田川等の公共用水域の水質保全のため、合併処理浄化槽の普及を促進する。

(3) 地区環境等の保全に関する方針

- ✓ 農地、森林への獣害対策の促進に努める。
- ✓ 奈良県側の玄関口として、市内観光案内等の仕組みの整備促進に努める。
- ✓ 登山マナーに対する啓発に努める。
- ✓ 木梶の三滝、中央構造線、高見山の樹氷などの自然資源、香肌峡温泉ホテルスメール、蓮ダム、山林舎などの観光資源の活用を図る。
- ✓ 自然資源や観光資源のネットワーク化、案内板・サインの配置、効果的なPRの実施など地域の活性化に努める。

● 櫛田川上流森・波瀬地域 整備構想図



記号	凡 例	記号	土 地 利 用
	広域幹線道路		低層住宅地
	幹線道路		中低層住宅地
	補助幹線道路		一般住宅地
	主な生活道路		住商複合地
	鉄道・駅		近隣商業地
	主な公園・レクリエーション地区		商業地
	主要公共施設等		商工複合地
	主な河川・水面		住工複合地
	市街化区域界		工業地
			集落環境保全地区
			農地等保全地区
	地区区分界		森林保全地区

